

生涯楽しく暮らし続けることができる 魅力あるまち「おぢや」

はじめに

小千谷市は新潟県魚沼地域の最北部にあり、国内有数の豪雪地として知られています。雪がもたらす豊富な水は、市内中心部を流れる信濃川に集まり、米どころ新潟県を潤しています。市内では魚沼産コシヒカリの生産が盛んであ



錦鯉品評会を訪れる外国人観光客

基幹産業の発展と 技能の継承対策

本市は、稲作中心の農業と、小

雪の恵みは農水産物にとどまらず、漂白のため雪上にさらすことで知られる麻織物の「小千谷縮」や、食品や日本酒の雪中貯蔵など、暮らしの中で活用されてきました。かつて1年の半分以上を雪に閉ざされていた小千谷の人は、忍耐強く、真面目な気質を今に受け継いでいます。

り、また「錦鯉発祥の地」としての養殖業は、現在では海外25カ国以上への輸出が出荷額の7〜8割を占めています。本年4月には、中山間地の棚田を生かした稲作と錦鯉の生産形態が「雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム」として日本農業遺産に認定されました。

千谷縮、紬などの織物産業により発展してきました。

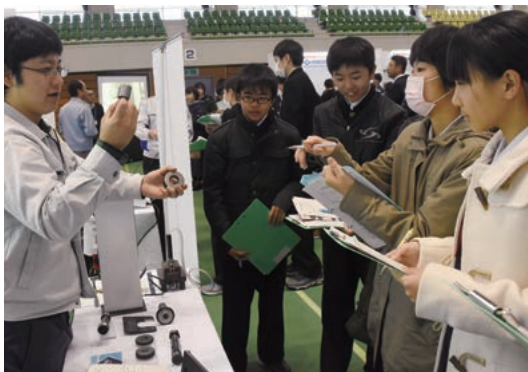
高度経済成長期以降、忍耐強く、真面目な気質を持つ人材が、微細かつ繊細な技術力と堅実な経営をもたらし、鉄工業、電子部品・精密機械製造業の発展に大きく寄与しました。現在では本市の基幹産業に位置付けられています。また、織物製造工程において女性の働く環境が整っていた本市では、30〜40代女性の就業率が高いことが特徴です。

平成16年10月23日に発生した新潟県中越大地震では、多くの企業・事業所が被害を受け、長期操業を停止する事態となりました。これを教訓と考えた小千谷鉄工電子協同組合では、企業間の協力的体制と共通の高い技術を持つ必要性、熟練技能の次世代への継承、

今後の就業者確保などを課題としてとらえ、技能の高度化と共通化、技術継承を目的とした「テクノ小千谷名匠塾」を設立しました。企業の垣根を超えた技術指導により、現在までに100名を超える技能検定合格者を輩出しており、熟練技術者が若手技術者に対して技能を教え、技能士資格取得を奨励することで、「技術力の小千谷」のブランド化を目指しています。

地元企業融合の キャリア教育

本市では、産業界と県立高等学校2校が連携し、中学生向けキャリア教育推進事業「おぢやしごと未来塾」を平成27年度から開催しています。市内の企業などが、Uターンを含めた将来の就職先の選沢肢として意識されるように、中学生に対して早期の動機付けや啓発活動を行っています。中学生が成長し、進学のため一時的に市外に転出しても、将来の就職先に地元企業を選択してもらえるような



キャリア教育推進事業「おちやしごと未来塾」

た。これにより、産科、小児科の医療体制が維持強化され、若者にとって定住しやすい安心感のある出産・子育て環境が整ったものと考えています。老朽化する施設への対応と医師不

市民が安心して暮らし続けるためのまちづくりとして、医療基盤の整備を積極的に支援してきました。

本年4月に、本市の経営母体の異なる2つの総合病院が統合し、郊外に300床を有する新潟県厚生連小千谷総合病院が開院しました。

病院統合と公共交通網再編

取り組みを、企業、高等学校および中学校と密接な協力関係で事業展開しています。先が長い取り組みですが、地元出身者が帰ってきたくなる意識付けに加え、地域の魅力を磨き、産業競争力を高めて持続するまちづくりを進めることが重要だと考えています。

足の解消に向けての課題に対して最大限の支援を行い、統合開院できたことで、少しでも肩の荷を下ろしたところです。

市街地にある2つの総合病院が移転したことを契機に、路線バスや乗合タクシーなどの公共交通網も大幅に見直しました。高齢化の進展による交通弱者への利便性を維持、高めるためにも、公共交通空白地域を解消しつつ、公共施設、医療機関や新病院を結ぶ公共バス路線、また、新たに市街地に循環路線バスの運行を開始し、大幅に経路、時刻、本数などを変更し、コンパクトなまちづくりとネットワークの確立による「暮らし続けられるまちづくり」を推進していきます。

今後の課題としては、中心市街地に立地していた旧病院施設の活用方策について、民間資本を視野に入れた最適な土地利用、施設活用により、将来にわたり市内外から「訪れたい魅力あるまちづくり」を進めていくことだと考えています。

おわりに

本市は平成27年10月に「小千谷

市総合戦略」を策定し、人口減少を抑制するため、しごとづくり、ひとの流れ、結婚・出産・子育ての安心、まちづくりの4本柱を据えて、各種施策を進めています。新規起業を支援するとともに地域産業を含めた企業立地を推進し、若者のU・イターンの促進につなげていきます。

また、医療基盤や公共交通機関を充実させるとともに、安価で暮らしやすい宅地、住宅を提供し、雪に強く住みよいまちをつくります。

本市の都市像にもあるように、市民が暮らしの中で住みよさを実感してもらえる施策の実践により、地域の宝である人が輝くまちづくりを進め、住みよいまち、暮らし続けたいまち「おちやし」の実現に向け、今後も全力で取り組んでいきます。

プロフィール

- ◆ 面積 155・19 km²
- ◆ 人口 3万6454人
- ◆ 世帯数 1万2723世帯

〔将来都市像〕「ひと・技・自然」暮らし実感 地域の宝が輝くまちおちやし

〔まちの特徴〕新潟県魚沼地域に属し、日本一の大河信濃川が造った河岸段丘上に位置する自然豊かなまち

〔特産品〕魚沼産コシヒカリ、へぎそば、米菓、小千谷縮、錦鯉



小千谷市長
大塚昇一



〔観光〕世界一・四尺玉花火の片貝まつり、国指定重要無形民俗文化財「牛の角突き（闘牛）」、錦鯉の里、山本山高原

〔イベント〕船岡公園桜まつり、信濃川河岸段丘ウォーク（4月）、おちやまつり（8月）、片貝まつり（9月9・10日）、新潟県錦鯉品評会（10月）、おちや風船一揆（雪原熱気球大会・2月）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

教育環境の整備と市の魅力アピールで 元気で明るい家庭を築ける野田市に

野田市の未来のため 子どもたちに投資

少子高齢化が進展する中、持続可能なまちづくりは、わが野田市のみならず、すべての自治体が抱える課題であると思います。この課題に対する私の答えは明快です。それは、子どもたちに、野田市に住み続けたい、大人になって



未来を担う子どもたちへの授業の一コマ

一時的に転出することがあっても、また戻ってきたいと思ってもらえるようなまちづくりを進めることです。そのため、子どもたちへの投資が重要であり、子育てしやすい環境整備や施策を推進し、さらに、教育環境の整備を推進するなど、子どもたちの郷土愛をはぐくみ、本市への定住意識を醸成していきたいと思っています。

小中学生アンケート

アンケートは、市立の小中学校の全児童生徒約1万2000人を対象に、無記名、自由記述式で実施しました。ただし、私と直接会って話をしたい児童生徒には記名してもらっています。アンケートはすべて私が直接読んでおり、記名者のうち、興味を持った回答者と意見交換を行う予定です。そ

こから、子どもたちのために実施すべき施策を検討したいと思っています。

先生と児童生徒の触れ合う時間を増やすために

本市では、現在、エアコンの設置やトイレの改修など、教育環境の整備を進めています。これらはとても重要な取り組みですが、それ以上に、子どもたちを直接指導する先生方が、子どもたちと向き合う時間を確保し、さまざまな活動を子どもとともにやっていくことが重要であると考えています。しかしながら、書類整理や集金事務、保護者からの相談などに多くの時間が費やされているというのが現状のようです。

このようなことから、本年度以降、教員の事務負担の軽減策を実

施してまいります。その一つが、「学級事務支援員の配置」です。これは、学級担任が行う事務を補助する学級事務支援員を各学校に配置するもので、本年度は、市内全小学校（20校）に各1人支援員を配置します。

もう一つが、「校務支援システムの導入」です。これまで、教員が個別に作成していた通知表や健康診断票などを一括して作成することができ、平成30年4月から本格運用していく予定です。

「子ども未来教室」として 無料の学習支援

すべての子どもたちが未来へ希望を持って進路を選択し、自立した社会生活を営んでいくことができるようにすることを目的に、「子ども未来教室」を本年度から実施しています。11校ある市立中学校の全生徒を対象に、週1回無料の学習支援を行います。

主な講師は大学生で、数学と英語の2教科の基礎学習を中心に、

生徒のレベルに合わせた教材も使用しながら個別指導を行うほか、3年生には、高等学校進学に向けた学習支援も行っています。

平成30年度からは、小学生の居場所づくりを兼ねた学習支援も実施していく予定です。

自然再生・創出と歴史と食にスポットを当て 市内外にアピール

本市は、自然再生・生物多様性のシンボルとして、かつて国内各地で見られ、里山周辺の田んぼの食物連鎖の頂点であったコウノトリを飼育し、野生復帰を目指しています。コウノトリも棲める環境は、餌となる多くの生き物をはぐくむとともに、人間にとっても安全・安心に暮らせる環境といえ、このような取り組みをしている本市は、市民はもちろん、市外の方にも「住みやすいまち」「子育てしやすいまち」「安全安心に暮らせるまち」といった魅力を感じてもらえるに違いないと思っています。

また、本市は、利根川、江戸川、利根運河に囲まれ、古くから川の恵みを活用しています。北部は大都市江戸への玄関口であり、重要

な川の関所が設けられた関宿藩の城下として、南部は江戸っ子の食文化を支えた醤油醸造業を中心に、文化と歴史豊かに発展してきました。

私は、このような市の魅力を最大限に活かし、地域づくりを行いたいと考えています。同時に、地域づくりには市民参加が重要とも考え、本年度は、市民を巻き込んだシティプロモーション事業の企画を公募したところであり、事業を通して、本市の魅力を市内外にアピールしていきます。

交通網の整備も非常に重要

本市全体として、将来人口の減少が見込まれている中で、これに歯止めを掛け、人口増に向かわせるためには、東京直結鉄道（東京8号線）の整備が重要です。本市にとって交通の利便性向上は大きな課題であり、鉄道が整備されれば、移住・定住者が増加していくものと考えております。

また、市内の交通網の整備も重要です。本市には、屋根に枝豆のオブジェを載せた大変ユニークなデザインのコミュニティバス、まめバスが走っています。旧野田

市と旧関宿町の合併を機に運行を開始したまめバスは、13年が経過し、より生活に密着したまめバスとなるよう、現在、運行計画の見直しを行っています。企業バスなどの活用やデマンド交通の導入も視野に入れ、本市全体の交通網をどう構築していくかという視点で作業を進めており、まずは平成31

プロフィール

- ◆ 面積 103・55 km²
- ◆ 人口 15万4772人
- ◆ 世帯数 6万6237世帯

〔将来都市像〕人々のつながりがまちを変え、みんなでつくる 学びと笑顔あふれる コウノトリも棲めるまち

〔まちの特徴〕周囲を利根川、江戸川、利根運河に囲まれた水と緑に恵まれた地域で、古く、北部は江戸への玄関口で川の関所が設けられた関宿藩の城下として、南部は醤油醸造業を中心に、文化と歴史豊かに発展

〔市町村合併〕平成15年6月6日、関



野田市長
鈴木 有



年4月に、より生活に密着したまめバスが誕生する予定です。
私は、これらの取り組みを通して、子どもたちの教育環境を整えつつ、市の魅力をアピールし、元気で明るい家庭を築ける野田市にしていきたいです。
野田市と野田市の子どもたちに
栄光あれ！

宿町を編入合併

〔特産品〕黒酢米、醤油、せんべい、漬物、みそ、枝豆、日本酒、焼酎

〔観光〕清水公園、キッコーマンもの知りしょうゆ館、高梨本家上花輪歴史館、高梨氏庭園、千葉県立関宿城博物館、鈴木貫太郎記念館、関根名人記念館、野田市市民会館、茂木本家美術館

〔イベント〕関宿城さくらまつり、つづじまつり、野田みこしパレード、三ヶ町夏祭り、ひまわりまつり、野田夏まつり、躍り七夕、関宿まつり（花火）、野田市産業祭、野田市民俗芸能のつどい、関宿城マラソン大会、さくらまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「街道」がつなぐ歴史と文化
リニア時代の宿場まちを目指して

街道のまち中津川

古代は「東山道」、近世は「中山道」「南北街道」を介したさまざまな交流による街道文化が息づく中津川市には、中山道の「中津川宿」「落合宿」「馬籠宿」の3宿があり、山深い木曾路を前にした宿場には多くの人々が滞在し、江戸や京都の都文化が運ばれ、にぎやかな宿場まちとしての文化をはぐくみ、中津川宿より北に向かう南北街道



地歌舞伎のまち中津川をアピールするPRイラスト

沿線は、日本海文化圏とのつながりと山村文化が色濃く残っています。

街道が交差し、日本のほぼ中央に位置する本市は、経済面でもそれぞれの時代において中央と地方をつなぐ交通結節点としての役割を果たすことで、さまざまな産業が発展してきました。

街道がもたらした
歴史と文化

県境を越えても歴史・文化は街道を通じて普遍的なつながりを持ち、本市においても近隣の木曾と飛騨の森林文化を共有してきました。

木曾地域と裏木曾と呼ばれる本市には、自然度が高く世界的にも希少で貴重な温帯性針葉樹林が広がっており、国は「木曾悠久

の森」として、数百年に及ぶ森林の保護に向けた取り組みを進めています。

とりわけ当地域から伐り出された良質なヒノキは伊勢神宮、姫路城、明治神宮など数多くの歴史的建造物に利用されており、現在でも20年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮の御用材として提供されています。

江戸時代には街道を人や物、情報が盛んに往来することで、都の芸能文化であった歌舞伎が地方で演じられるようになり、この地域にも庶民の娯楽として広まり、やがては自分たちが演じ手となる「地歌舞伎」として現在まで受け継がれてきました。平成22年には岐阜県から「岐阜の宝もの」に認定され、県と連携して地域資源の磨き上げに取り組んでいます。



中山道43番目の宿場で、木曾11宿の一番南の宿場町「馬籠宿」

同じく江戸時代、この地方を治めていた遠山藩の居城であった苗木城跡は、当時の風情をしのぶことができる旧跡として、歌舞伎の芝居小屋とともに多くの観光客が訪れています。

また、本市は文豪・島崎藤村、日本画家の前田青邨、洋画家の熊谷守一の出生地としても知られ、馬籠宿の島崎家跡地に建つ藤村記念館には、代表作「夜明け前」などの作品原稿も展示されています。

新たなみち「リニア中央新幹線の可能性」

2027年リニア中央新幹線が開業、東京～名古屋間が約40分でつながることになり、本市には岐阜県駅が設置されるとともに整備工場を有する中部総合車両基地も設置されます。

2045年に全線が開通すると、中津川と東京、大阪が各1時間で結ばれることになります。

リニア中央新幹線は、新たなみちであり、岐阜県駅は多くの人や物が行き来する新たな交通の結節点として、都市と地方をつなぐ



江戸期に、馬籠宿と落合宿との間に造られた「落合の石畳」

役割と地方の拠点としての役割を併せ持つ現代の宿場まちの核となります。

本市としても、ここでしか見ることのできない景色、味わうことのできない食べ物など市の魅力を磨き上げ、強く発信していかねければなりません。

さらには岐阜県駅を中心とした2時間圏内の人の往来を広域観光や地域振興につなげていきたいと考えています。

ギャップを楽しむ

近年、外国人旅行者を含め、「歩く」スタイルにより旅を楽しむ人々が増加しています。近い将来、リニアに乗るそのスピード感とリニアから降り立った後に空気が景色、歴史・文化を体感じながら街道をゆつくりと歩くというギャップを楽しむ旅行者も増えるかもしれません。

訪れてみたい、
住んでみたいと思う
まちづくり

中津川市ではリニア時代を見据え、宿場町の風情や地歌舞伎、芝居小屋、森林文化など地域の魅力

を磨き上げ、ここにしかないオンラインワンのものを作り上げ、多くの人が訪れてみたいと思うまちづくりに取り組んでいます。

またリニア駅周辺整備やアクセス道路の整備によりまちの利便性を高め、より快適な居住空間を作るとともに、これらを生かした文化・研究機関や新たな分野の企業

プロフィール

- ◆ 面積 676・45 km²
- ◆ 人口 7万9775人
- ◆ 世帯数 3万2225世帯

〔将来都市像〕かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる中津川

〔まちの特徴〕県の南東部に位置し、琵琶湖とほぼ同じ面積。日本百名山の恵那山や木曽川、付知川などの美しい自然に囲まれ、古くは中山道の宿場町として栄え、近年は中核工業団地を中心に商工業都市として成長

〔市町村合併〕平成17年2月13日、長野県山口村を含む1市7町村が合併



中津川市長
青山節児



〔特産品〕栗きんとん、和菓子、五平もち、ほお葉すし、地酒、飛騨牛、夏秋トマト、あじめコシヨウ、東濃ひのき

〔観光〕中山道3宿、苗木城跡、地歌舞伎、芝居小屋、付知峡、島崎藤村記念館

〔イベント〕おいでん祭、ふるさとじまん祭 菓子まつり、つけち全国レディース・クラフトフェア、中津川 THE SOLAR BUDOKAN、清流木曽川中津川リレーマラソン大会

誘致を進め、若者と女性が働きやすく住んでみたいと思うまちづくりにも取り組んでいます。

街道が果たしてきた文化や産業などをつなぐ役割をリニアという新しいみちが担い、これを生かすための人づくりやまちづくりを進め、人口減少社会に挑戦してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

トッポアスリートに選ばれるまち 「総合スポーツ戦略都市みやざき」

はじめに

宮崎市は九州南東部に位置し、宮崎県の県都として、また南九州の中核都市として発展してきました。「太陽と緑」に象徴される本市は、日向灘を臨む宮崎平野にあり、太平洋に沿って流れる黒潮によって温暖な気候風土に恵まれ、亜熱帯植物の繁殖する青島の国定公園日南海岸の南国色豊かな景観は、県外からの皆さまに大変喜ばれています。

また、神話や伝説に基づく歴史・文化資源を有するほか、プロスポーツや各国代表選手などのキャンプ地として実績を積み重ね、「スポーツランドみやざき」として全国に発信しています。

キャンプ地みやざきの魅力

本市は、快晴日数が年53日（全

国第2位）、日照時間が年2116時間（全国第3位）、年平均気温17・4℃（全国第3位）といった気象条件に恵まれ、全国和牛能力共進会2連覇中の宮崎牛や、地鶏、伊勢エビ、完熟マンゴー、日向夏、完熟きんかんなどの豊富な食材、国内はもとより、韓国・台湾・香港との定期直行便が就航する宮崎空港の優れた交通アクセス、そして何よりプロ野球チームに対応した野球場をはじめ、公認陸上競技場などの充実した施設が市内にコンパクトにまとまり、練習環境が充実していることが大きな魅力となり、野球、サッカー、ラグビー、ゴルフ、陸上、トライアスロンなど年間約20種目、100団体以上ものスポーツ合宿が行われています。

また、長年キャンプの受け入れ

を積み重ねてきたノウハウはもちろんのこと、本市は神々が生まれたという「神話」も有していることから、多くのチーム・選手がここ宮崎で「勝ち運」をつかみ、輝かしい結果に恵まれるなど、多くのチームやアスリートが本市を選ぶ理由となっています。



春季キャンプでにぎわうスタジアム

総合スポーツ戦略都市 みやざき

このような強みを生かし、本市では、「スポーツキャンプの聖地」としての都市イメージを高め、プロ・アマチュアの合宿、キャンプのさらなる誘致を実現させ、交流人口の増加や販路拡大など、より高い経済効果を得るため、「総合スポーツ戦略都市」を掲げ、戦略的に事業を展開しています。

その代表例が春季キャンプで、今年もJリーグ13チームを、特にプロ野球は3球団（読売ジャイアンツ、福岡ソフトバンクホークス、オリックス・バファローズ）を同時に受け入れています。これは全国でも本市だけであり、期間中の総観客数は約50万人にも上り、にぎわいの創出につながっています。

また、プロスポーツだけでなく、海外および日本の中学生を対象とした「東アジアリトルシニア野球宮崎大会」や、国内外のシニア世代の方々を対象とした「全日本グ



生目の杜運動公園

付きの宿泊プランを販売するなど、関係機関と連携した取組も進めています。

さらに、フェニックス・リーグ期間中は、試合終了後の練習を球場内ベンチより見学できる

ランドベテランソフトテニス大会」など、各種大会の開催支援を通して、市民スポーツの活性化に努め、生涯スポーツの振興にも取り組んでいます。

また、秋季には、「みやぎフェニックス・リーグ」が開催されます。現在では、国内プロ野球12球団に加え、韓国プロ野球3球団と四国・アイランドリーグ1チームが参加し、144試合を開催しています。

今ではすっかり秋の宮崎の風物詩となった本リーグですが、平成28年度から、始球式の一般公募を始め、全国から多数の応募をいただき、全日空（ANA）の「旅作」（HPから飛行機・宿泊施設の申込ができる）にて、使用球がもらえる特典

「アフターゲームスタジアムツアー」やファンとの交流イベントを中心市街地で実施するなど、本市ではキャンプ地として選手に思いつきりプレーしてもらおうための施設整備はもちろんのこと、「おもてなしの心」でファンの受け入れ態勢も充実させています。

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックに向けて

最近では、「2019ラグビーW杯」や「2020東京オリパラ」の事前キャンプ誘致にも積極的に取り組んでいます。

本年3月には、早速、日本陸連男子（短距離）の「宮崎強化合宿」が実現したことに加え、東京五輪に向け、ドイツ陸上競技連盟の2019年の事前合宿地や2020年の直前合宿地に決定するなど、成果が開始しています。

また、ラグビーW杯の事前キャンプについては、前日本代表HC（ヘッドコーチ）、エディ・ジョーンズ氏が現在HCを務めるイングランド代表への誘致活動を行っており、平成28年はイングランドラグビー協会ヘトトップセールスを行い

ました。本年8月には、同協会とエディ・ジョーンズHCが宮崎を訪問することが決まっており、その際には改めて本市の充実した施設や豊富な食料、そして「勝ち運」をPRしていきたいと考えています。

おわりに

本市はこれまでスポーツキャン

これまでに培ってきた経験やノウハウを生かし、豊かな食料や人の柄の良さも生かしながら、地産地消や地産外産を推進し、本市のブランドを確立させ、資源の付加価値を高めていきたいと思っています。このことにより、交流人口の拡大を図り、地域経済を活性化させ、なお一層「総合スポーツ戦略都市みやぎ」の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 643.67km²
- ◆ 人口 40万3225人
- ◆ 世帯数 19万2378世帯

〔将来都市像〕 活力と緑あふれる太陽都市・・・みやぎ・・・

〔まちの特徴〕 青い空と海、四季折々の花や緑に彩られ、雄大な自然と温暖な気候に恵まれたまち

〔市町村合併〕 平成18年1月1日、佐土原町、田野町、高岡町を編入、平成22年3月23日、清武町を編入



宮崎市長
戸敷 正



〔特産品〕 きゅうり、ピーマン、佐土原ナス、黒皮かぼちゃ、日向夏、高岡文旦、完熟マンゴーなど

〔観光〕 宮崎神宮、平和台公園、青島、青島神社、日南海岸、堀切峠、鬼の洗濯板、みそぎ池など

〔イベント〕 みやぎ国際ストリート音楽祭、まつりえれこっちゃんみやぎ、宮崎神宮大祭、みやぎゴルフフマンス、青島太平洋マラソンなど

※面積は国土院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。